

水道事業体と国際貢献

－日本水道協会の取組み－



新水道ビジョン策定検討会
(第6回)

平成24年7月23日

(社)日本水道協会 研修国際部長 松井庸司



(社)日本水道協会

1、日本と世界

我が国水道が目指す日本と世界の関係
アジア(世界)と日本の持続可能な水道経営へ

わが国水道事業体の活性化、産業界の活性化

日本の水道事情

- 高水準な水道サービス
- しかし、多くの課題がある
 - ・施設の更新
 - ・技術の継承等
- 課題解決による一層のサービスの向上と国際競争力アップ

アジア(世界の)水道事情

途上国、新興国、先進国にもそれぞれに多くの課題がある

課題の解決・持続可能な水道経営
(未普及の問題、気候変動の問題、巨大都市問題、水源の不足、漏水、24時間給水、財政的自立、小規模水道問題、貧困層問題)

アジアの水問題の解決に日本が様々な形態で貢献
ODA (JICA)、PPP (民間企業+)、WOPs (水道事業体+)

1、日本と世界

これまでの日本と世界との関係

欧米先進諸国の技術・仕組みの導入

日本の水道事情

- 高水準な水道サービス
- しかし、多くの課題がある
 - ・水源不足
 - ・水源水質悪化への対応
- 課題解決による一層の水準アップ

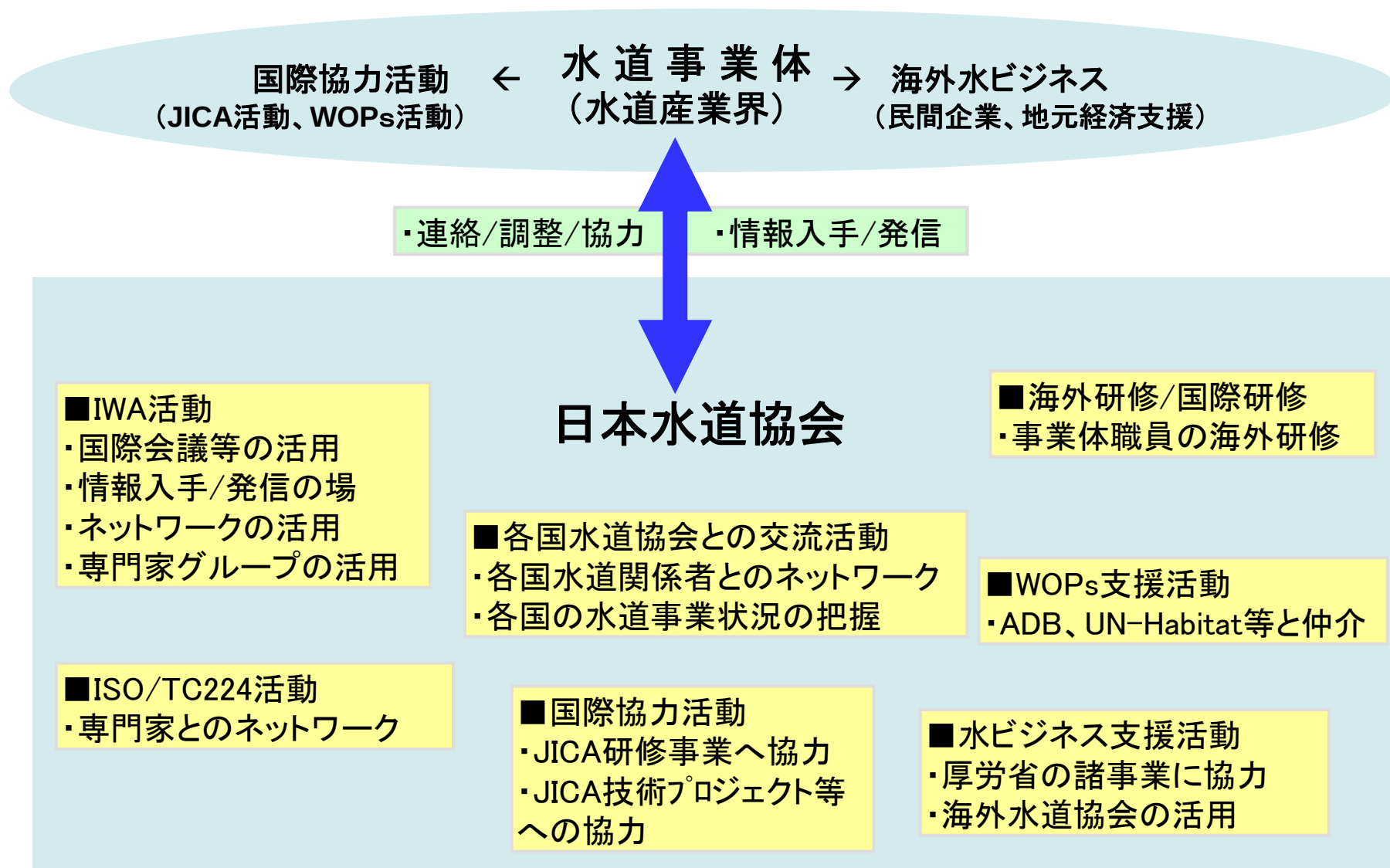
アジア(世界)の途上国水道事情

- 途上国には、それぞれの国に多くの課題がある。
- 課題の解決
 - ・水道の普及
 - ・水道施設の建設

途上国の水問題の解決に
日本がODA (JICA)の形態で貢献

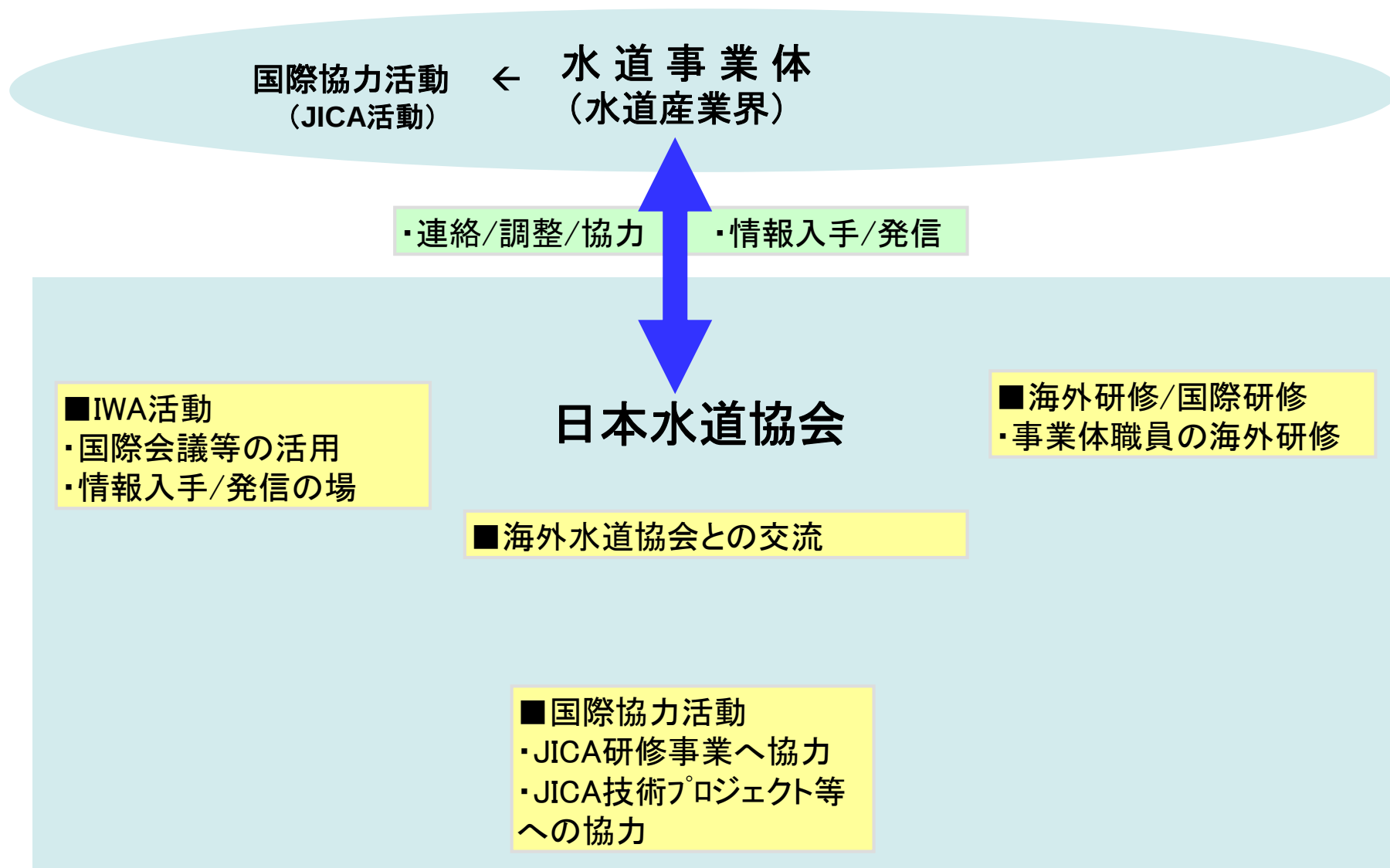
2、日水協の国際活動

最近の日本水道協会の国際活動



2、日水協の国際活動

かつての日本水道協会の国際活動



2、日水協の国際活動

日本水道協会の国際活動とその目的

区分	目的	現在の主な活動内容
①国際人材の育成	水道事業関係者の国際に関する人材を育成する。(国内の事業体職員等)	○日水協の国際交流基金を利用した研修事業(AWWA総会研修、英国研修所、専門研修) ○IWA等の国際会議への参加(発表、聴講等)による実践的な人材育成の機会/場の提供 ○JICA事業(受託研修等)を活用した水道専門家の育成 ○全国水道研究発表英語部門、ISO/TC224会議、協会雑誌抄録委員等、日水協の活動を通じた国際人材の育成
②海外情報の収集と国内へ情報提供	海外先進技術やベストプラクティス等の情報取得とその国内水道事業体等への情報提供	○国際会議出席による海外情報収集 ○国内ワークショップ開催による海外情報収集 ○各種海外定期刊行物の購読による海外情報収集 ○ISO / TC224ワーキンググループ活動を通じた海外情報収集 ○協会雑誌等への掲載による情報発信
③国際交流	世界の水道関係者、特に近隣国との友好関係の樹立・維持	○IWAを通じた交流 ○各国(米国・韓国・インド・インドネシアなど)の水道協会との交流 ○その他、様々な活動を通じた国際交流 ○海外への情報発信による国際交流
④開発途上国への国際協力	途上国水道の水道整備促進のための国際協力活動の支援	○JICA業務等を受託するなどによる国際協力 ○事業体独自の国際協力(WOPs)への支援
⑤産業の海外展開による国際貢献	我が国産業・技術による世界の水道の課題解決への貢献	○水道産業国際展開事業の厚生労働省からの受託 ○IWA世界会議等における展示等のアレンジ ○水道国際貢献推進協議会(JIP-Water)に参加

3、海外水道協会との交流

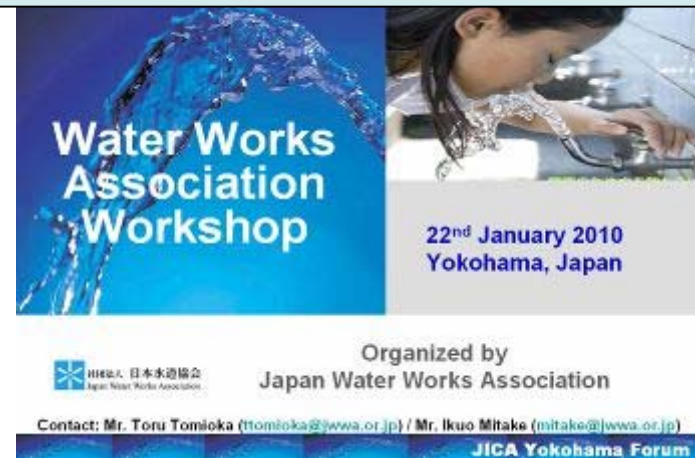
海外水道協会との交流状況

	国名	相手組織		活動の内容
隣国	米国	AWWA	◎	本協会職員が3ヶ月滞在研修。毎年度AWWA総会へ派遣。専務理事同士の会談。
	韓国	KWWA	◎	ソウル・東京フォーラムで毎年相互訪問。KWWAからの要請は多種かつ多数。
	台湾	CTWWA	◎	ASPIRE台北と東京で活発に交流。それ以外でも交流多い。
	中国	CUWA	△	中国開催の国際会議へ毎年出席。但し、相手方事務局との連絡が困難。
アジア・南アジア	オーストラリア	AWA/ WSAA	◎	要請に応じてワークショップへ講師派遣。調査団訪問の手配要請。その他交流多い。
	ニュージーランド	Water NZ	△	アスパイアでの冊子作成で情報提供有り。その他地震に関してメールで情報交換。
	(シンガポール)	(PUB)	—	シンガポール国際水週間で交流。IWAシンガポール事務所も活用。
	マレーシア	MWA	○	IWA関係会議において交流。本年3月、要請に応じて講師を派遣。
	フィリピン	PWWA	○	ASPIRE参加の要請で事務所を訪問。交流は少ない。
	インドネシア	PERPAMSI	◎	今月、定例的な交流に向けてMOUを締結。現会長になって交流活発化。
	ベトナム	VWSA	○	厚労省セミナーを現地で開催。
	インド	IWWA	◎	2,010、11、12年と相手国訪問。2012年は厚労省セミナー開催。協力についてメモ交換。
	タイ	協会：不活発	—	MWAが水道協会の活性化に興味(MWAとの個人的な交流多い)
	カンボジア	協会：無し	—	水道協会の設立に興味。厚労省セミナーを開催(北九州市と交流)
	ラオス	協会：無し	—	水道協会の設立に興味。(さいたま市と交流)
欧州	オランダ	VEWIN	◎	IWAワークショップへ講師招待
	イギリス	Water UK	△	現在のChairと交流あり。

3、海外水道協会との交流

多国協会間の交流

2010年1月22日 水道協会ワークショップ開催(横浜シンポジアで)
JICA横浜での水道幹部フォーラムの機会を活用して実施(インドネシア、ベトナム、インド、カンボジアが参加)



2011年10月3日 JWWAセミナー開催 (東京国際フォーラムで)
ASPIRE会議の機会を活用して実施(インドネシア、ベトナム、インド、アジア開発銀行が参加)



アジア開発銀行のWOPs予算を活用した交流活動などについて議論。

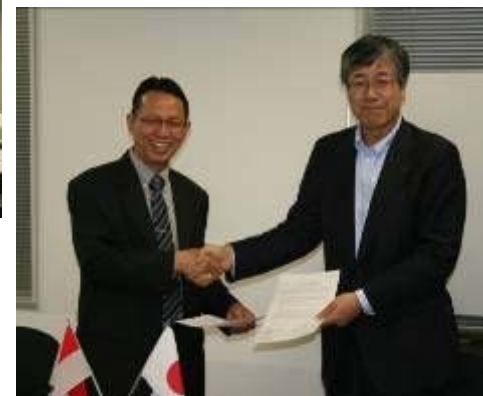
3、海外水道協会との交流

インドネシア水道協会との交流

2012年7月8～15日 インドネシア水道事業体幹部の研修を実施
日本水道協会とインドネシア水道協会が協力して実施（日本水道協会で）



研修はインドネシア水道事業の情報収集と幹部とのネットワークづくりにも役立つものとなった。



7月13日、日本水道協会・尾崎専務理事とインドネシア水道協会・シャイフル会長とで、今後の協力関係についてMOUを交換。

3、海外水道協会との交流

インド水道協会との交流

2012年1月9日 インド・日本水道セミナーの開催

インド・チャッティスガル州ライプール市 主催:厚生労働省 運営:日本水道協会



2011年3月2日 日本水道協会とインド水道協会との意見交換会

(ムンバイで開催された水道事業幹部会議に参加するとともに、現地調査を実施)



日本水道協会とインド水道協会とで、24時間連続給水に関するモデル事業をマハラシュトラ州において実施に向け協力することについて、合意メモを交換。

3、海外水道協会との交流

(参考) 国際水協会(IWA)を活用した活動

IWA会議でJapan Pavilionを企画し、参加。
2008年ウィーン世界会議、
2009年台北アスパイアー会議、
2010年モントリオール世界会議、
2011年東京アスパイアー会議

- ・IWAは世界100カ国に約1万人の会員。
- ・個人メンバーは大学や研究機関に所属する研究者・実務者が多い。
- ・各国水道協会、水道事業体が加盟する唯一の世界的団体。
- ・50以上の専門家グループがあり、そこから、出版のアイデアやISOによる世界標準を目指す活動などが生まれる。
- ・日本水道協会は、国内の事務局を務める。

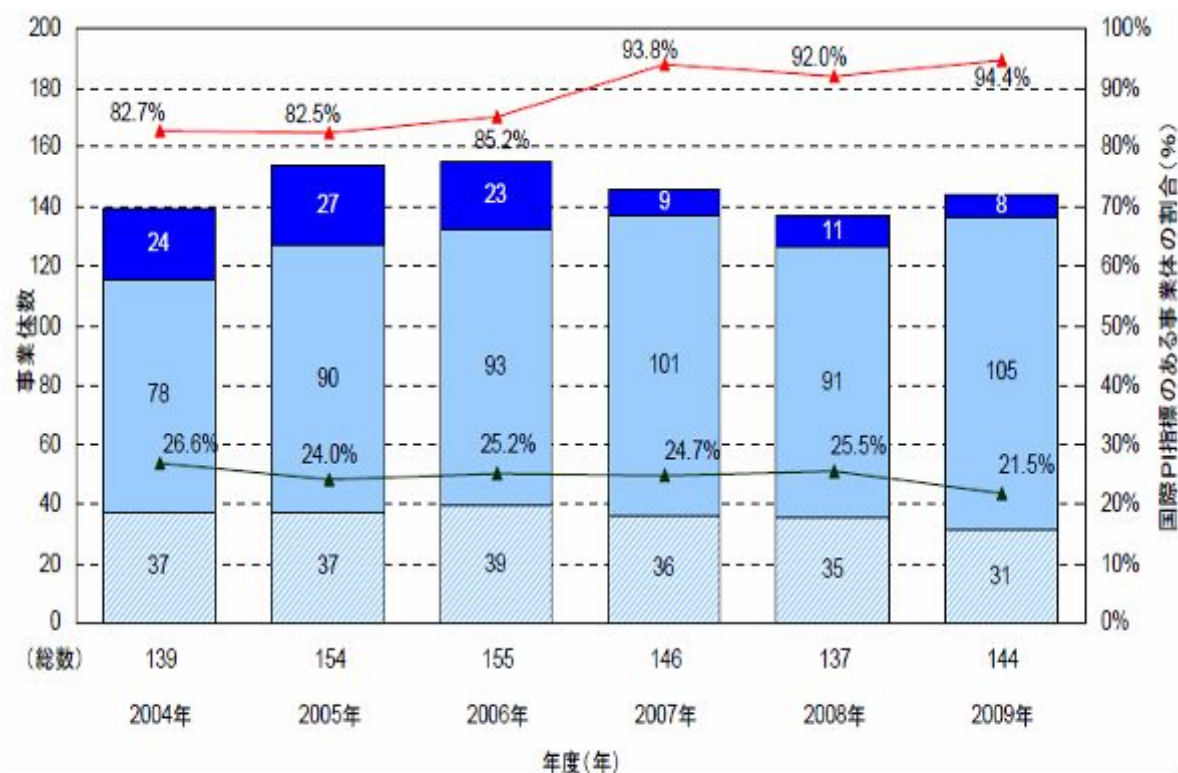


日本でのIWA会議の開催。アセットマネジメント、気候変動、ベンチマーキング・PI、ガバナンスなどをテーマに、ほぼ毎年行い、世界をリードする専門家を講演者として招請。

4、事業体の状況

我が国水道事業体の国際化の状況

状況：国際PI指標を有する事業体は136事業体（2009年現在約94%）であるが、国際貢献実績のある事業体は31事業体（約22%）となっている。（第1回検討会資料から）



① 国際PI指標のある事業体(国際貢献実績あり) ② 国際PI指標のある事業体(国際貢献実績なし)
 ③ 国際PI指標のない事業体
 国際PI指標のある事業体の割合(%) (①+②)/(Σ①~③)
 国際貢献の実績がある事業体の割合(%) (①)/(Σ①~③)

国際委員会のアンケート結果

2008年実施

2009年2月まとめ

回答数 101団体

■国際活動について

・方針等があり活動

30団体

・方針等はないが活動

13団体

・活動なし等

58団体

自治体水道国際展開プラットフォーム（平成22年12月）

（19自治体＋日水協）

5、今後の活動を考える

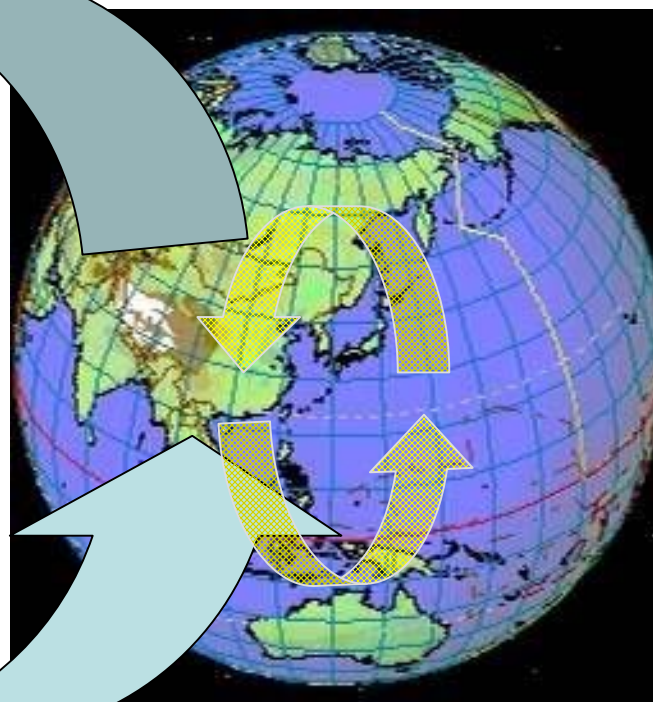
ビジョンの実現を目指して
—国際活動に参加する事業体は多くはない現実—

“国際協力等を通じた水道分野の国際貢献”の位置づけ

- ◎ 全ての水道事業体が国際活動に取り組むことを目標に置くことは疑問
- ◎ 「水道界全体として取り組む」ことについて理解を得ることが長期的な国際活動を支えるためには必要

我が国の水道事業体の国際活動
—集中的かつ長期的な取り組み—

- 国際活動に取り組む事業体
(活動に集中的・長期的に取り組む)
- 国際活動のチャンスがない事業体
(国内の取り組みに理解・支援)



1. 国際活動の方向

区 分	活動内容
①国際人材の育成	(国際交流によるネットワーク作り) ⇒ ネットワーク作り(人・組織)を中心に ⇒ ネットワークを活用し、人材育成・研修など ⇒ ネットワークを活用し、先進技術、ベストプラクティスの収集
②海外水道情報収集	
③国際交流	
④開発途上国への国際協力	(ODA／WOPs／PPP産業展開) ⇒ ビジネスへ通じる形態でODA／WOPs活動 ⇒ ビジネスも相手国に貢献する形態で
⑤水道産業の海外展開	

2. 長期的な国際活動を支えるために

区 分	主な活動内容
国際活動の理解促進	水道界全体で国際活動を支える 活動を広く水道界に伝えることによって、理解の促進を図る



ご清聴、ありがとうございました。

日本水道協会/研修国際部/国際課
kokusai@jwwa.or.jp

15



(社)日本水道協会